

私たちの暮らしを守る 「笛吹ダム」

わたしたちの生活に欠かすことのできない「水」。その水源となる川は時として洪水や渇水などの災害をもたらします。

その対策として、志佐川総合開発事業「笛吹ダム」が平成4年度の事業採択から15年の歳月を経て完成を迎えました。

特集では、ダムの必要性から建設に至る経緯、ダム建設への地区住民の思いなどを紹介します。

わたしたちの水源地

わたしたちの大切な水源の役割を担っている志佐川は、これまで過去幾度となく災害や渇水に見舞われてきました。

志佐川の水

志佐川に流れる水は、生活用水や農業用水、工業用水として供給されています。

下流には、上水道と工業用水用の取水口があり、約3,700戸の市民に1日平均約6,000トの生活用水を供給しています。また、電源開発と九州電力の2つの発電所に1日12,300トの工業用水を供給しています。



志佐川下流の生活用水・工業用水の取水口



稚アユの放流を行う上志佐小学校の児童

また、志佐川下流では、毎年志佐川漁業協同組合員や水道課職員などが、稚アユの放流やカニ・ウナギの放流を行っています。放流には、上志佐小学校や志佐小学校の児童も参加して美しい志佐川の水にふれ、楽しんでいきます。

また、初夏にはアユ釣りも行われるなど、多くの生物が生息する場所となっています。

志佐川の災害

志佐川では、大雨が降ると山間部に降った雨水が志佐川に集まります。昭和57年7月の停滞前線に伴う長雨による家屋の浸水や平成11年6月の梅雨前線豪雨による護岸崩壊など、過去幾度となく洪水や災害に見舞われ、治水対策が急務となっています。

また、空梅雨などで干害が発生し、志佐川の水量が激減することもあり、平成16年8月には9日間、その10年前の平成6年7月からは実に約12か月間もの水不足になり、「渇水対策本部」が設置されました。



平成11年、志佐川の護岸崩壊災害

平成6年、水の干上がった志佐川



この渇水によって、志佐川から供給されている生活用水だけでなく農業用水などにも大きな影響があり、給水制限などで多くの市民が生活に支障をきたしました。

このため、志佐川水系笛吹川に、洪水調整、河川流水の正常な機能維持、工業用水等の供給を図るなどの多くの機能を持ったダムの建設が望まれていました。